

カルメル

靈性センターニュース



2014年11月

303号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
諸所の企画案内	33
年間購読(郵送)のご案内	42
編集後記	43

心 の 泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第二巻

第八章 イエスとの親しい友情

2 甘美な天国

イエスがいないなら、この世はあなたに何を与えることができるであろうか？イエスなしに生きることは、忍びがたい地獄であり、イエスと共に生きることは甘美な天国である。もしイエスがあなたと共にいるなら、どんな敵もあなたに害を加えることはできない。イエスを見いだす人は貴い宝を、いや、すべての宝にまさる宝を見いだす。それに反して、イエスを失う人は、非常に大きなものを、この世よりも大きなものを失う。イエスなしに生きる者は、この上なく貧しく、イエスと共に正しく生きる者は、大きな富を持っている。

3 大切な友情

イエスと共に、親しく生きるのを知ることは無比の手腕であり、イエスをそばにとどめるのを知ることは無上の知恵である。謙遜な平和の人でありなさい。そうすればイエスはあなたと共におられる。敬虔で柔軟な人でありなさい。そうすればイエスはあなたと共にとどまる。

外部のこと興味を持とうとすると、すぐにイエスを失い、神の恵みも失う。もしイエスを失うなら、あなたは誰のもとにのがれ、誰を友とするのか。眞実の友を一人ももたずには、あなたは生きられないであろう。そして、誰よりもイエスがあなたの友でなければ、あなたの生活はあまりに悲しく、あまりに味気ない。誰かほかの人をあなたの頼りにし、あなたの喜びとするなら、あなたは実におろかな人である。イエスに逆らうくらいなら、全世界が自分に敵対するほうを取りなさい。あなたの愛する人々のなかでも、特にイエスは、彼らよりはるかに愛されるお方でなければならない。

聖テレジア生誕500年記念を祝って

日々神と親しく生きる　－11月－

何ごともあなたを乱すことなく
何ごとも恐れはならない
すべては過ぎ去る
神のみ変わらず
忍耐はすべてをかち得る
神とともにある者には
何も乏しいことがない
神のみで足りる

～アビラの聖テレジアのことば～



11月は諸聖人の祝日ではじまり、翌日は死者の日を祝います。美しく色づいた自然界も徐々にその色あいを失せていき全てには終わりがあることを無言のうちに語っているようです。教会の伝統では死者の月とされている今月の最後の日曜日は「王であるキリスト」の主日となっています。教会の暦ではすでに年末!そして救い主の到来を待つ待降節がはじまります…

「すべては過ぎ去る　神のみ変わらず」と多くの方々の心をとらえるマドレ・テレサの祈りが響き渡ります。「すべては過ぎ去っていく、でも真の命は変わることがない」との信仰がキリストを王として仰ぎ、新たなみ国を信じ、希望します。この希望のうちに、すべての困難・苦しみを耐えて日々の生活を生きることができますように。過ぎ去っていくものを追い求め、握りつかもうとする代わりに、空の手でしかと神のみ手を探し求めることができますように。「神のみで足りる」とは神以外のすべてを失うのではありません、すべてを神のうちに見出すことではないでしょうか。神のみ手のうちにすべてを引き寄せるのです・・・日々の苦しみだけでなく、喜びも、家族、友人、知人、病人、全世界の嘆きも神のみ手に託しましょう。リジューのテレーズの「私を引き寄せてください」とのあの祈りとも符合します。11月の年末に向かう日々、新しい年への希望を神のみ手に託しましょう。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

人を赦す（13）

九里 彰

前回の「仲間を赦さない家来」のたとえでは、王が「一万タラントン借金している家来」を憐れみ、その借金を帳消しにしてやったところ、この家来はその後、自分に「百デナリオンの借金をしている仲間」に出会うと、彼を赦さず、「借金を返すまで牢に入れた」という話であった。

一万タラントンということは、一タラントン＝六千デナリオンであるから、六千万デナリオンとなる。一デナリオンは、当時の日当。したがって、単純に一年 365 日（365 デナリオン）で割れば、「16 万年分の負債」となる。それに対し、100 デナリオンは「3 か月余の負債」にすぎない。

要するに、私たち人間は、神に対し 16 万年分という天文学的な途方もない負債を負っているにもかかわらず、神の憐れみによって帳消しにされたのである。ところが、仲間の人間のわずかな負債に対しては、それを帳消しにするどころか、厳しく取り立てるということを、しばしば行っているのである。人に対しては厳しく、自分には甘いという現実である。

これはどうしてであろうか。いろいろな理由が挙げられる。第一に考えられるのは、自分が罪人であるという自覚がないことである。以前挙げた妙好人、因幡の源左など、浄土真宗の流れでは、この意識は前提されているが、無宗教となった現代日本人の多くは、自分が罪人であるという自覚はほとんどないと言っていいだろう。「私は何も悪いことはしていない。もちろん、時々、人と喧嘩したり、悪口を言ったり、良くない態度を取りつたりするが、神から赦されなければならないような悪いことなど何もしていない。」といったところであろうか。

しかし、これはまさにキリストのたとえで糾弾されている、神の前で自分を誇り、自分を正しい立派なユダヤ教徒としたファリサイ派の人の姿（ルカ 18 章）である。その意味では、信仰を持っているとされるファリサイ派の人と信仰を持たない現代日本人ととして変わることろがない。

問題は、私たちの存在そのものが神から離れ、神に背を向け、自分を世界の主にしようとする傾きを持っているということである。つまり、自分の罪の自覚は、原罪の自覚とならなければ、「仲間を赦さない家来」のたとえにある一万タラントンの帳消しの体験とはならないということである。とはいって、このたとえでは、この体験を持った者でも、そのことを忘れて仲間を赦さないということになっている。

死者の日 年間第31主日（A）

みことばのひびき

（マタイ21：33-43）

11月1日は諸聖人の祭日です。先に旅立ち、今は神と顔と顔を合わせて永遠の幸せを享受している全ての人たちを喜びと感謝のうちに思い起こします。本日11月2日は死者の日で、神の恵みと友情のうちに亡くなった全ての信者を記念します。

死者の日の朗説は、神が私たちの人生の最終目的であり、地上で築きあげてきた信仰と愛の絆を死が絶つことはないということを思い出させます。私たち一人ひとりが永遠のためにそして一致のためにつくられていることを表わしています。ローマ人への手紙の中でパウロは、キリスト教徒は洗礼を通してイエスの死に入り、復活されたキリストに入ると語っています。「わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかる者となりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです」。ヨハネによる福音においては、イエスが自分のところに来る者には誰にでも施される恵みあふれる歓迎の心について語ります。イエスはまた彼に属している者に対して忠誠を約束し、自分のところに来る者は誰も失わず、最後の日に復活させると保証されます。

毎年この祭日には、祈りの中で亡くなった愛する人たちを思い出す時間をとります。ミサのときに帰天者を思い出すという伝統は、初代教会にまでさかのぼる古い習慣です。この祈りと神聖な記憶で、いくつかの重要な信念を想起します。私たちが愛する人たちと築き上げてきた信頼と愛の絆は死によってなくなるものではないということを確信します。この人たちは神にとって、そして私たちにとって異なるが真の方法で存在しています。ミサで祭壇に集まるときと同じように私たちにとって存在しています。この日また、私たちは亡くなった人たちが私たちの祈りで助けられていることも思い出します。生きている人たちへの祈りが重要で、効果があるということを信じているのと同様に、私たちは死後キリストとの出会いへの浄化のときを過ごしている人たちのための祈りの効果にも信頼を置いています。私たちの生活には、キリストを愛し、キリストに従いたいと思っている信者にさえ、キリストの呼びかけに抵抗し、キリストの望みには達していない部分があるということを知っています。光と愛の充満である復活したキリストとの出会いを通して、死者はキリストの愛に抵抗したことから浄化されます。この神秘的な過程に伴う全てのことが分るわけではありませんが、祈りを通して私たちはお互いに助け合っていることを確信しています。

死者の日には何か暗いものがあります。死者のための祈りは心を暗くする調べがあります。死者のための祈りは、私たち自身が死ぬべき存在であることを、私たちの生命は時間的に限られていることを、私たちは主に出会う必要があることを思い起こさせます。しかし、この日は最後に希望に向かいます。キリストが与えてくださる深い、継続する希望です。「わたしたちはキリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることになると信じます」とパウロがローマの教会への手紙の中で言ったことを告白します。（Sr. Paulina）

「イエスが言われる神殿とは、ご自分の体のことだったのである」(ヨハネ2, 21)。

今日、教皇の司教座聖堂、ラテラン教会の献堂の記念日に当たり、福音朗読も、通年のマタイ福音を離れ、「ヨハネによる福音」の第二章から取られています。そこで語られるイエスの事跡は、エルサレム神殿から、羊や鳩を売っている者たち、両替する者たちを追い出した、いわゆる宮清めの出来事です。この事件についてのヨハネの記事には、他の共観福音記者たちが報告するものとは異なる点があります。第一に、ヨハネは、この出来事をイエスの活動のはじめのころに配置しています。他の福音書では、受難の前、つまり、イエスの宣教活動の終わりごろとなります。どちらが史実なのか、との問いは別にして、ここに、イエスの人格と活動を見るヨハネの独特的な視座が、現れてきます。つまり、イエスの地上における全活動、その宣教も、奇跡も、体を持って生きられたすべては、聖なる父なる神と罪深い人間との間に、それまでとは異なる新しい出会いの道を開くことに向けられているのです。イエス以前の神と人との関わり方、つまり、ユダヤ教だけではなく、人間の中に自然的、本能的に繰り込まれている神と人間の邂逅の理解、神殿とか犠牲とか、また、聖と俗の峻別を軸にする礼拝、崇敬の価値観、宗教観に対する、イエスによる新しさに焦点が合わされているのです。確かに、ユダヤ教の、そして、すべての文化で実践されてきた神と民との出会いは、神殿、神格との接触を保証する特別な聖なる場所、そして、そこで捧げられるいけにえ、隔絶する聖なる神格と罪深く汚れた人間との間を執り成す仲介、犠牲、いけにえ、奉納物を、中心にして展開されるものです。そこに表現される単なる儀礼性を超えた、人間の深い、敬虔な宗教性を無視するのではなく、ただ、その次元に留まらず、福音の新しさの光をすべてに浸透させる必要があります。このヨハネによる記事の第二の特異点は、「羊や牛をすべて境内から追い出した」、ここにあります。羊や牛の燔祭、いけにえは、罪の贖いのために、確かにモーセを通して神から示されたものではありませんか。しかし、動物のいけにえを捧げる事が、一つの隠れ蓑のようになり、自分の内面、価値観、行動基準には、何の変化ももたらしてはいない。自分自身の生き方を神の愛によって変えられるままになってはいない。イエスは、神と人間の出会いを保証するのは、ご自分の十字架、あるいは、十字架に付けられたご自分自身、その肉体と魂、精神すべてを包む人間としての人格存在、全面的に愛とされたご自分自身である、と宣言されます。わたしたちの日常は、このイエスと一つの体となっているのでしょうか。ルカ渡辺幹夫

年間第三十三主日 (マタイ 25: 14—30)

今日は、年間最後の主日です。次の日曜日には王であるキリストの祭日を祝います。典礼歴の最後を思うだけでなく、全てのことにつながることを心に留め、これに備えて過ごすよう心がけましょう。

今日のマタイの福音書の中で、イエスは弟子たちやファリザイ人たちに天の国についてたとえを持って説明して下さいます；天の国に召されたとき、わたしたちがこの地上で与えられていた夫々の賜物をどのように用いていたかを主である神はお調べになる（裁かれる）ことを強調なさいます。神と隣人を愛するためにどのように用いたかをご覧になるのです。このたとえはこの世の終わりに行われる最後の審判を思い起こさせます。

このイエスのタラントンのたとえは、わたしたちが与えられた能力を目いっぱい使い、勤勉に働き、一生懸命生きることがイエスの望みであることを示しています。豊かに与えられたタラントン（能力）を期待に反して使わなかつたときはどうなるかを教えてくださいます。たとえの中の、旅に出ようとして家来を召集する主人は、イエスの姿です。主人が家来を信頼してタラントンを預けたように、イエスもわたしたちを信頼し、聖靈を通して霊的な賜物を与えてくださいます。このイエスの無償の賜物によってわたしたちには神の子どもとなるチャンスが与えされました。聖靈と聖体の恵みによって、常にイエスのより近い所でイエスとの親しい交わりのうちに過ごせるチャンスです。このとき、タラントンを与えた主人のように、主であるイエスはわたしたちにより豊かな収穫を期待なさいます；キリストのうちに霊的に深められ成長すること、これは主が期待される収穫、主がお望みになる最終的な結果です。豊かな収穫は絶え間ない忠実さと労働によるものです。旅から帰った主人に褒められた家来は、いずれも責任を遂行し心を尽くし魂をつくして、独創的な方法で託された元金を殖やしました。

今日の福音は、主人の帰り（キリストの再臨）を待ちながらこの世に生きるキリスト者の生活態度に鋭く迫ります。たとえはキリストの過ぎ越し（十字架の贖い）と復活の恵みによって全く新しい人間に変えられ、聖父と聖子と聖靈の愛の交わりに招かれているわたしたちが世の終わりのキリストの再臨までの仮の時間をどのように生きるべきかの勧めでもあります。今の時代、教会の中には何一つ変えることを望まず、昔のやり方に固執している人がいます。でも今こそ神が各自に与えて下さった特別な能力（タラントン）、賜物について一人ひとりがよく調べてみると、ある人たちは特別の才能が豊かに恵まれているように見えます。しかし賜物が全く無い人は絶対にないのです。キリスト者の共同体である教会の中で、またもっと広がりのある社会の様々なところで、与えられている賜物をどのように使っているか、心静かに考えてみましょう。イエスが寛大に与えてくださったタラントンを使って儲けた成果を主に見ていただくとき、イエスを喜ばせ、イエスに褒めて頂けるよう準備しておきましょう。

(Sr. Paulina)

「羊飼いが羊と山羊を分けるように、…羊を右に、山羊を左に置く」(マタイ 25, 32-33)。

今年、王であるキリストの祭日、つまり、最終日曜日の福音は、「マタイによる福音」からの最後の審判の記事です。この個所の特色は、審判者とその裁く行為が、羊飼いの姿で描写されていることです。確かに、ユダヤの文化、発想の中に、王、権力者の姿を羊飼いで表現することはあります。また、聖書の中で羊飼いを神に当てはめる個所もあります。しかし、そこで強調されるのは、優しさや配慮、憩い、救いであって、審判、裁き、断罪ではありません。「主は羊飼いとして群れを養い、御腕をもって集め、子羊をふところに抱き、その母を導いて行かれる」(イエス 40, 11. 参照エレミヤ 31 - 10; 詩編 23, 1)。ですから、審判者との単語から羊飼いとの表現を連想するには、かなり飛躍があります。しかし、この飛躍をあえて引き起こるのは、この審判が、イエスの宣教活動、「『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」(マタイ 9, 13)、「わたしは柔軟で謙遜なものだから、わたしの輻を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる」(マタイ 11, 29)と、天の国の福音を語ってきた歩みを集約する場面での位置づけです。つまり、このイエスの宣教活動を、どのように聴き、学び、どのような態度決定をしてきたのか、この問いを、イエスの説教の聴き手たち、つまり、わたしたち、福音の読者たちは、一人ひとりが自分のものとして直面するように、と招かれているのです。そして、この学びを、実生活で隣人に対して、どのように実践、実行に移してきたのか、をも。

そもそも、究極の審判者はキリストであり、その行為すべては、全人類への愛の計画の完成に向けられているものです。イエスは、人の罪を確定し、断罪するために裁くのではありません。自力では自分が落ち込んだ穴から這い上がり、広やかな新しい世界に歩み出せない者たちを、救い出し、抑圧している勢力から解放し、完成への道を歩ませる方なのです、神の裁きはこの解放を目指しています。ただ、この神の計画に逆行する勢力、神の救いの計画を頓挫させ、完成には至らせない、あるいは、その歩みを遅らせるもの、それに与する者たちには、はっきりとした拒絶の宣告がされます。彼らは、神が宣言するまでもなく、自らがこの神の計画に反しているのですが。 ルカ 渡辺幹夫

待降節第一主日 (マルコ 13 : 33-37)

“いつも気をつけて、目を覚ましていなさい！”

今日から待降節が始まります。待降節は待つ時、愛おしい大切な方を待っています。わたしたちの思いは主を待つこと、イエスが来てくださることに集中します。わたしたちは三重に待っています。イエスは既に歴史に登場されていますが、クリスマスの前になると幼子イエスのご誕生、ご降誕の日を迎える喜びと期待は最大になります。またこの世の終わりにはイエスが再び来られ全ての人をご自分の許に引き寄せてくださるそのときを待っています。同時に日々、わたしたちの生活の中に来てくださることを経験しています；ご聖体や神のみことばでわたしたちを養い、出会いや出来事のうちに現存しておられます。特別に待降節の間、神の愛の最高の顕示である、人となられたイエスを待ち焦がれています。イエスはこの世を完成するために来られた神です。ですから待降節の間、神のご計画の実現を待っている間も、神はわたしたちと共にいて下さる事を意識するのです。しかし、今日のミサのテーマは“到来”です。預言者イザヤは神の約束が実現する未来の救いの時代に触れています。その救いのときは、神が全てのものをご自分の尺度に合わせ、元の状態に戻してくださる希望のときです。

それで今日の福音は、未来と現在におけるイエスの到来について述べています。大事な事は、用意していること、目を覚ましていることです。“気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたには分からぬからである。”と福音書には記されています。イエスは再度外国に旅する人のたとえでお話しになります。主人は出かける前、僕たちに留守の間にしておく仕事を割り当てます。門番には用心深く見張るよう警告しました。“目を覚ましていなさい。いつ家の主人が帰ってくるのか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か、主人が突然帰って来て、あなたがたが寝ているのを見つけることがないように。目覚めていなさい。”これはわたしたちへの静かな、でもはつきりした警告です。何の予告もなしに来られる主をお迎えする準備をしておかなければなりません。日頃よく経験する出来事です。目を覚ましているということは、いつも確かな感覚をもって、自分の状態を正しく知り、注意深くあることです。

生涯の日々を神と共に神と親しく生きる人々にとって、こうすることは当然の問題のない生き方です。常に神であるイエスを意識し、イエスの近くで生活する習慣を身につけた人は難しくありません。でも訓練しなければ得られない習慣です。これはわたしたちの生活を本質的に変えるもので、最後のときの準備も整えるものです。日々周りの人々の中に神を探し見出し、彼らを通して神を愛し、神に仕え、そして彼らの内にあって神に愛され、神に仕えていただくのです。

聖なる祈りに満ちた待降節をお過ごしください。“マラナタ！来てください、主イエス来てください。”

(Sr. Paulina)

帶の惹句に「屋根職人と平凡な主婦の奇想天外な空の旅」とあります。

「屋根屋」(村田喜代子著)という最近大変興味深く読んで心に残った小説です。雨漏りのする屋根の修理を依頼された屋根職人は、なぜか自由自在に夢を見ることができて、夢の中で世界中どこへでも望むところへ飛んで行けるという特技の持ち主です。修理を頼んだ主婦は、雨漏りを直してもらうだけでなく屋根職人に夢の見方の手ほどきを受け、やがて二人は夢の中で度々落ち合い世界中の屋根を見に行く旅をするのです。

東経寺、瑞花院吉楽寺など国内はおろか、ノートルダム寺院、シャルトル大聖堂、アミアン大聖堂などへも一飛び、果てには天空の屋根ヒマラヤ連峰をも上空から眺めます。夢の中の旅は私たちのこの現実の旅と同じようでもあり、汽車に乗ったりホテルのレストランで食事したりもするのですが、何とも不可思議な雰囲気が全編に漂い、それこそ夢のような魅力をかもしています。

小説読みの習いでたっぷりと淫して存分に現をぬかし、余韻をむさぼり、ようやく平素に立ち返ったとき、私はまるでとりこになったかのように「闕」ということをしきりに考え思ひ続けました。

夢の話なので当然識闕の向こうとこちらを往き来しながら物語は進むのですが、周知のように私たちの意識の部分は氷山の一角であり、それを支える無意識の領域は遥かに遥かに広大というのなら、そこには夢の話だけでなく一体どれほどのものがどのようにして詰め込まれ、抑え込まれているのでしょうか。

その境界をせき止めている識闕、それでもしばしば神秘的要請といえるものに従って、闕の向こうから雨漏りのように漏れ出てくるものがあるのだと知るとき、私はなぜか力が弛みほっとします。息をつきます。

同じ夢の小説、漱石の「夢十夜」は私のこよなく愛読するのですが、やはり闕の向こうを描く作品です。

単なる幻想的な美しい物語という以上の深い何かが存在していて、読む度にいつも哀しいような怖いような懐かしいような気持ちになり、変な言い方ですが、魂がよろこんでいると思うのです。誰の心の底にもひそんでいる例えば抑圧されて在るもの、ここに場を得て発信するメッセージを受けとるのでしょうか。

闕というとき、夢とはまた別の分野となるのでしょうか、病跡学パトグラフィーというものにも幼稚な身勝手な興味ではありますが深く関心があります。

小説家や音楽家の創造が、狂氣とさえ呼ぶような深層の病理と関わっていることに驚きつつも心のどこかではしつくりとなじんで得心し魅了されます。

そうしたことが書かれているもので私にも読めそうなものを、若い10代の頃からあれこれと探し求めました。今にして思えば病理とは私自身の深い淵にも存在し、この現実の生活に何らかの影響を落としているはずと感じ、或る畏敬の念をもって無意識の世界へ聞耳を立てていたのでしょう。

確かに人の心、魂は、闇を越えてこそ成るものに赴くのだと思っています。

神と出会うこと、わが身の罪深さの絶望と自己放棄の辛苦の真っただ中に降り落ちてくる目眩く救いの体験は、恩寵による全身を貫く闇の突破であるのではないかとそんなことも思うのです。

そして今、是非に書き記したく思うのこと、これもまた闇の向こうからの訪れでしょうか。30年も前になりますが亡父の最期の頃、がんの末期にあってモルヒネの効果で意識朦朧の状態でした。私が部屋に入るといつと目を留めて姿を追いました。ベッドの傍らでお父さんと手をとったとき「あゝ淳子だったのか 僕はさつきさんと思っていた」と言ったのです。さつきさん、さつきさんとは誰でしょう。知らない名です。母の名前ではありません。

娘の姿に重なって意識の彼方から闇を越えて父の胸に甦り去來したきっと若い女性の面影、父にとていかなる人であったかはわかりませんが、この出来事は娘として冥利に尽きるというのでしょうか、思わずして涙ぐむほどの幸福感をもたらしました。

さつきさんはどの位のあいだ闇の向こうに密やかに息づいていたのでしょうか。もしかしたら忘れ去られるべき哀しい存在として長い長い年月抑えこまっていたのでしょうか。父の意識からも消えていたのかもしれません。

この世の最期に娘の姿にさつきさんを見た父、そして闇を越えて父のもとに馳せたさつきさん。よかったですねお父さんと私は心から思いました。父と娘への神さまからの祝福のように思いました。

「屋根屋」の屋根職人のように自由自在に夢を見て、夢の中では何でも可能というのなら、どんなにいいでしょう。

闇を越えて、いつだって会いたい人に、会いたいときに、会いに行く。

いのちの言葉 11月

命の泉はあなたにある。

(詩編 36・10 参照)

この聖書の言葉は、とても大切で根本的なことを私たちに告げており、和解と交わりを築くための手立てとなるでしょう。

み言葉はまず「命の泉はただ一つ、それは神である」と告げています。世界は神から、創造主でおられる神の愛から生まれ、人が住まう所となりました。

あらゆる賜物とともに、私たちに命を与えてくださるのは神です。砂漠の生活が厳しく不毛であることを知っていた詩編の作者は、水の湧き出る泉が何を意味するかをわかつっていました。泉の周りには命が芽生えます。神の創造の業をたたえて歌うには、これ以上美しいイメージを見出すことはできなかったでしょう。創造の業は、神の内から流れ出る川のようだからです。

神への賛美と感謝が、心から湧き出ること。これが、私たちのすべき最初の一歩であり、詩編の言葉から汲み取るべき第一の教えでしょう。すなわち、すべての業と美しい宇宙、そして人間を造られた神に感謝し、神をたたえることです。人は、神の栄光のあらわれであり、神に向かって「命の泉はあなたにある」と言える唯一の被造物です。

命の泉はあなたにある。

御父の愛はあまりにも大きいため、み言葉によってすべてを創造されるだけでは足りず、み言葉そのものが受肉されることを望まれました。唯一の真の神ご自身が、イエスのうちに人となられ、命の泉をこの地上にもたらされたのです。

あらゆる善、あらゆる被造物、あらゆる幸福の源でおられるイエスは、私たちの身近にいてくださるため、私たちの間に来られました。イエスは言われました。「わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」(*1)と。イエスは私たちの生活、時間・空間のすべてを、ご自身で満たしてくださいました。私たちがさまざまなどころに彼を見出し、愛することができるようになると、イエスはいつまでも私たちと共に残されることを望まれたのです。

時に私たちは「イエスの時代に生きられたら、どれほどすばらしいだろう!」と思うかもしれません。しかしイエスは、パレスチナの片隅だけでなく、地上のあらゆるところにとどまるための方法を愛によって生み出されました。すなわち、約束された通り、イエスはご聖体の内にいてくださるのです。この源から、私たちは命の水を飲み、養われ、生活を新たにしていくことができます。

命の泉はあなたにある。

神の存在という生きた水を汲むことのできる、もう一つの泉は、兄弟姉妹です。

私たちの周りにいるすべての隣人、特に助けを必要としている人を愛する時、私たちが相手を助けるというよりも、相手の方が私たちに恩恵を施してくれるのです。なぜなら私たちに神を与えてくれるからです。実際、「わたしが飢えていた、渴いていた、旅をしていた、牢にいた・・・」(*2)とみ言葉にあるように、兄弟の中におられるイエスを愛する時、そのお返しとして、私たちはイエスの愛、イエスの命をいただきます。兄弟姉妹の中におられるイエスご自身が、愛と命の源でおられるからです。

また、私たちの内におられる神の存在も、豊かに水をたたえる泉だと言えます。神はいつも語っておられ、私たちの方がその声、すなわち良心の声に耳を傾けるかどうかにかかっています。私たちが神と隣人を愛そうと努めれば努めるほど、神の声は他のすべての声にまさって、心の中で一層はっきりと聞こえるようになります。そして、私たちの内におられる神の存在から命の水を汲み取るために、特に適した瞬間があります。それは、祈る時、魂の奥におられる神と直接関係を深めようと努める時です。この神の存在は、地下深くを流れる水脈のようで、決して枯れることはありません。望む時にはいつもそこから水を汲むことができ、どんな時でも渴きをいやすることができます。たとえ周りの状態が砂漠のように乾ききっていても、私たちがこの泉を見つけるためには、一瞬魂の扉を閉じて、心の奥深くに入るだけで十分でしょう。そして神との一致に至る時、私たちはもはや自分一人ではなく、二人でいるのを感じます。神が私の内におられ、私が神の内にいるのです。また神の恵みにより、ちょうど水と泉、花とその種のように、私と神は一つになります。

詩編の言葉が私たちに思い起こさせてくれるのは、ただ神だけが命の泉であり、満ち満ちた交わりや平和、喜びの源であるということです。この泉から水を飲み、神のみ言葉という命の水によって生きる者になればなるほど、私たちは互いにも近くなり、兄弟姉妹として生きるようになるでしょう。その時には、「あなたが私たちを照らされる時、わたしたちは光の内に生きる」(*3)と詩編の言葉が続くように、すべての人が待ち望んでいる光が、現実のものとなるでしょう。

キアラ・ルーピック

* 今月の言葉は 2002年1月に発表されたものです。

(*1)ヨハネ10・10 (*2)マタイ25・31-40 参照

(*3)「主の言葉」(現代語による共同訳聖書ローマ1985年) 詩編36・10参照

いのちの言葉は聖書の言葉を默想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ いのちの言葉の集い

関東 11月9日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室

(週日に、吉祥寺、調布、鶴沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 11月15日(土) 14:00~ 平針教会

11月16日(日) 13:00~ 愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「遊夢」

長崎 11月30日(日) 14:00~長崎 カトリック浦上教会 要理教室

* 詳細は各フォコラーレ・センターまで

連絡先: フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

十字架の聖ヨハネ こぼれ話（85）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

ああ、何とおいしそうなブドウだ！

ある日、ヨハネ修士はバエサにあるブドウ園の中を歩いていました。その時、十字架のヘロニモ修士を伴っていました。金色に輝くブドウを見ると、彼はそれが食べたくなりました。そこで聖人に言いました。

「ブドウをひと房取る許可をくださいませんか」。

ヨハネ修士は、まったく平静な態度で答えました。

「いえ、取ってはいけません。なぜなら私は、許可を与えるブドウ園の主人でもないし、あなたが取る物は、多からうと少なからうと、他人のものだからです」。

そこで彼はぶどうを取ることができませんでした。でもイエスの弟子たちが空腹を覚えた時、形式ばらず許可も取らず、麦の穂を摘み取り、食べ始めたということ（マタ 12・1-2；マコ 2・23-28；ルカ 6・1-5）を思い出しながら、その後に従ったそうです。

こうして誰でも…

十字架のヨハネ修父の修道院の一つで、ある日、台所で塩が足りなくなりました。料理する者が、塩なしで調理された食べ物を前にしていた時、「ひとりの牧童が、皮袋に一杯の塩を持って、門の所にやってきました」。台所から香部屋に目を移すと、ひとりの修道士が、祝福のために運ばれてきた復活ろうそくをつかもうとした際、それを落としてしまい、粉々にしてしまいました。ところが、聖土曜日のちょうど同じ朝に、「復活ろうそくを持っていないだろうと、復活ろうそくをたずさえたひとりの人が、到着しました」。これらの二つのごく小さな摂理は、かつてないほどきわめて大きな原則を引き出すために、ヨハネ修士のために見事に役立ちました。「私たちは、みな借りを負っている者です。神さまは私たちが必要とするものをみな与えてくださるのですから」。

ヘンリ・ナーウェンの 旅路の糧（181）



体に対して畏敬と敬意を持つこと

非常に多くの仕方で私たちは体を使用し、また酷使しています。イエスが私たちのもとへ体をもって到來したことや、その存在が体と共に神の栄光へと上げられたことは、私たちが自分の体や他者の体を、大いなる畏敬と敬意をもって取り扱うよう求めています。

神は、イエスを通して、私たちの体を、聖所とし、神の住む場所として選ばれたのです。それゆえ、体の復活の信仰は、私たちが自分や他者の体を、愛をもって世話をするよう求めているのです。私たちが他者の傷と結ばれ、他者の体の回復のために働く時、私たちは、永遠の命へと定められている人間の体の聖性を証ししているのです。

（1127）

靈の体

復活において、私たちは靈の体を持ちます。私たちの自然の体はアダムから来たのですが、靈の体はキリストから来るのです。キリストは、滅びに至らない新しい体をもたらす第二のアダムです。パウロが言うように、「私たちは、土からできたその人〔アダム〕の似姿となっているように、天に属するその人〔キリスト〕の似姿にもなるのです」（1コリ15・49）。

私たちの靈の体は、キリストに似た体なのです。イエスは、死に定められた体にある命を、私たちと分かち合うために来られたので、その靈の体にある命をも分かち合うことができるのです。パウロは、「単なる人間の本性は、神の国を受け継ぐことはできないのです」（1コリ15・50）と言っています。イエスは、朽ちるべきものに朽ちないものを、死ぬべきものに死なないものを着るためにやって来られたのです（1コリ15・53 参照）。こうして、靈の命が完全に顕現するのは、体においてなのです。

（1130）

（九里 彰訳）

跣足カルメル修道会HP（International）

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

跣足カルメル修道会の拡大総長顧問会、韓国で開催される（2）

2014年9月6日

前号（1）からの続きです。

私たちは、修道生活において充実した絶えざる養成の必要性を考えています。それは、初期養成に限らず、テレジア的カルメルの養成の本質的な諸側面やテーマに焦点をあてた、私たちの生き方の根本的な諸価値を再度吸収する助けとなるようなガイド付きの旅です。これに関しては、その意味を照らし与える基本的な文章を引き出すために「会憲」を再度取り上げて再読することです。



この旅の終わりに、すべてのカルメルのファミリーである修道者、修道女、在世会員を、私たちの聖なる母、聖テレジア生誕500周年記念祝典に際して、「謙遜の谷」（自叙伝35:14）の旅にお招きしたい。そこから私たち共通の遺産である忍耐の力を引き出し、起源の「根」から今の存在の「枝」に至るまでの命のしるしを見出し、それがもたらす挑戦を取り上げながら。私たちは愛する者の声を再び聴く時、「新しい季節」がもたらされるという物語に信仰と希望をもって、この旅路に入りなさい。それは、時が変わり、命の新しい地平が目の前に現れたからです。「恋人よ、美しい人よ、さあ、立って、出ておいで」（雅歌2:10）。

”奉獻生活者年” の前年を迎えている現代の教会に合わせて、立って出てきなさい。神のみ言葉を心に持って福音宣教する共同体は宣教者です。私たちも、教皇フランシスコの熱心な招きを歓迎します。「すべてのキリスト者、またすべての共同体は、主の求めている道を識別しなければなりませんが、私たち皆が、その呼びかけにこたえるよう招かれています。つまり、自分にとって快適な場所から出て行って、福音の光を必要としている隅に追いやられたすべての人に、それを届ける勇気を持つよう招かれています。」（教皇フランシスコ 使徒的勧告『福音の喜び』20）。

総会をめざして、総長顧問会は、10月と11月の間に討議要綱を準備する委員会を指名します。この文書は今年12月と来年1月の間に全管区で検討されて、総長顧問会は来年3月中に全管区にその最終版を送付します。

最後に、特に拡大総長顧問会を招集し準備するために働かれた総長顧問会と総長館、そして会議運営のために働かれたすべての人々、韓国のカルメル会の兄弟的なお世話に対して感謝申しあげます。教師であり、祈りと内的生活の模範であるカルメル山の聖母マリアが、目の前にある小道を歩んでいく私たちを助けてくださいますように。





奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも本体 2000 円+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな靈性をたたえた祈りの人であり、東西靈性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。
カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と靈性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。
大いなる賭け——宗教対話／日本人とキリスト教——遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。
日本の神学——根源への問い／相互愛／「信する」と「愛する」／新しい拠

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っていかれるのか。
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。
嬰児復帰／人間の栄光と悲惨／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻



カルメルの靈性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その靈性の根源に迫る。
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的靈性

第8巻



神に向かう(祈り) 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。
寄れる祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にもみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神祕を見つめる。
清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の靈性

カルメル会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンス宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

カルメル会の企画案内



上野毛靈性センター～‘15年3月
默想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院(默想) **

1. 木曜默想会 (毎回木曜日 10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

11月13日 キリストのからだなる教会 福田正範神父

12月 4日 無原罪のマリア 九里 彰神父

2015年

3月 5日 洗礼と主の晚餐 福田正範神父

2. 金曜默想会 カルメルの靈性 (毎回金曜日 10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

2015年

1月 16日 聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン) 福田正範神父

3. 奉獻生活者の為の默想会

12月 27日 (土) 18時～2015年1月 5日 (月) 福田正範神父

4. 青年默想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

11月 22日 (土) 15時～24日 (月・振休) 16時

5. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2014年12月24日(水)～25日(木) 《講話なし、夕食なし》

6. 聖週間前の默想会

2015年

3月 19日 (木) 18時～22日 (日) 16時 「十字架の神秘」 福田正範神父

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(默想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

木曜黙想会

「キリストのからだなる教会」

日 時： 2014年11月13日（木） 10時～16時

指 導： 福田 正範 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
(黙想の家)

会 費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・
TEL 03-5706-7355
FAX 03-3704-1789
Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・ * 黙想会の3か月前より申込みを受付します
FAX、メール、ハガキにてお願い致します。
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）



カルメル青年黙想会

福音の喜びを生きるには



日 時 : 11月22日（土）15時～24日（月）16時
場 所 : カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
対 象 : 高校生以上の青年男女（35歳まで）
定 員 : 20名
費 用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
締 切 : 11月15日（土）<必着>
指 導 : 福田正範神父・カルメル会士

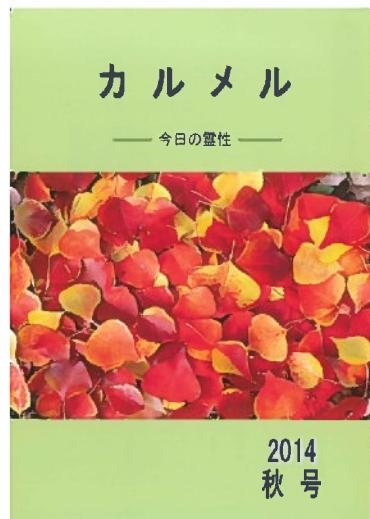
※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mail の何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
電 話 : 03(5706)7355
FAX : 03(3704)1789
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

「カルメル」

今日の靈性・秋号

四旬節講話特集号



カルメル 2014 特集号

2014 秋 No.354

「イエスの聖テレジアの
カリスマとその広がり」

● 目次 ●

イエスの聖テレジアのカリスマと後代への影響

渡辺幹夫

二人のテレジア

伊徳信子

アビラのテレサとリジューのテレーズ

九里 彰

テレジアと出会った十字架のヨハネ

松田浩一

テレジア的カルメルの中の三位一体のエリザベト

須沢かおり

エディット・シュタインとテレジア

須沢かおり

○ 目次 ○

※今年の特集 聖テレジアと他の聖人たち

自分の内に生きることなく生きる
——テレジアの詩とヨハネの詩——

九里 彰

二人の聖テレジア
——マドレ・テレサの言葉に生かされて

伊徳信子

エディット・シュタインと聖テレサ
——カルメル会での修道生活における受苦と恩寵——

須沢かおり

イエスの聖テレサと男子跣足カルメル修道会についての考察

原 造

松田浩一

風にふかれて
——人生は美しいことだけを覚えていればいい——

28 21 10

聖テレジアによる祈り
——さびしさ——

ボーリン・フェルナンデス

西行と芭蕉の靈性
——さびしさ——

田畠邦治

54 47 42 37

今夜あなたと死にたいわ

森 みさ

60 54

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円（+送料140円）】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 脱足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

2014年～2015年 黙想会案内（宇治カルメル会）

【一般のための黙想】

・1泊2日（午後5時～午後4時）

2015年 1月 10日(土)～ 11日(日) 神の栄光・生きている人間 松田浩一神父

【聖書深読黙想会】

・1日 (午前10時～午後4時)

11月 29日(土) 九里彰神父

2015年 2月 7日(土) 九里彰神父

【水曜の黙想】

・1日 (午前10時～午後4時)

11月 12日(水) 死者の月に祈る 人生の秋 中川博道神父(変更)

12月 17日(水) テレサと祈り 松田浩一神父

2015年 1月 14日(水) 神の国は近づいた 今泉健神父未定

2月 11日(水) キリストの教え(神と人間の尊厳) 松田浩一神父

3月 25日(水) 神のお告げ 今泉健神父未定

【四旬節の黙想】

・1泊2日 (午後5時～午後4時)

2015年 2月 28日(土)～3月 1日(日)

3月 28日(土)～3月29日(日)

【待降節の黙想】

・1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 12月13日(土)～12月14日(日) 神の子の誕生 九里彰神父

【カルメル青年黙想会】

・1泊2日 (午後5時～午後4時)

11月 23日(土)～11月24日(日) イエスの聖テレジア教会博士の祈りの手ほど
11月 15日(土)～11月 16日(日) き(変更) 松田浩一神父(変更)

【奉獻生活者の黙想】

2014年(午後5時～午後9時)

12月27日(土)～1月5日(月)

松田浩一神父

『社会人(働いている人)のための靈的同伴』 → 別紙参照

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(水)～12月25日(木) {講話なし、各食事つき}



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



イエスの聖テレサ（テレジア） 1515年3月28日生

生誕 500 年記念の年

«2014年10月15日～2015年10月15日»

主なプログラム《関西地区》

2014年10月15日(水) 午前11:00 開始ミサ <宇治カルメル修道院>

11月1日 (土) 午後 2:30 講話(Fr.松田) <京都カテドラル>

テーマ：16世紀スペインから輝く福音の光、聖テレサ

12月13日 (土) 午後 2:30 講話(Fr.中川) <京都カテドラル>

テーマ：テレジアの希望による福音

<2014年1月、2月も講話予定>

2015年 3月21日(土) 午後 2:00 マキシミリア/神父(テレジア専門家)

講演会<京都カテドラル>

2015年 8月10日～8月14日 カルメルファミリー国際交流会

スペイン・アヴィラで開催!!

尚、8月5日～8月9日まで、テレサの生誕500年記念のためにスペイン司教団・カルメル会共催のヨーロッパ青年大会が同じ場所で開催される。

詳しい情報は下記のところへ!

611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会修道院

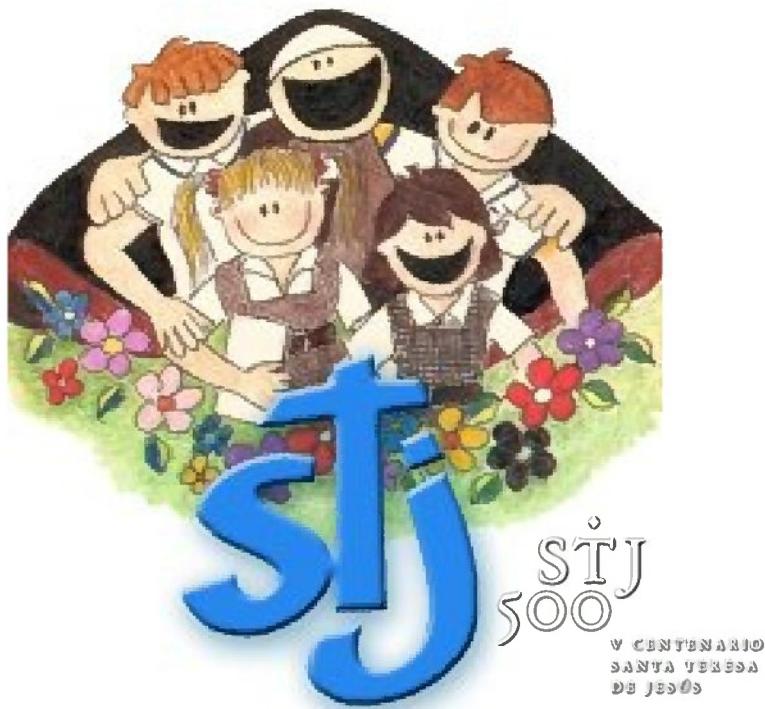
担当 松田浩一神父

TEL 0774-32-7456 FAX 0774-32-7457 [✉ teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

カルメル青年黙想会

テーマ：*祈りを教えて!!*

イエスの聖テレジア教会博士の祈りの手ほどき



対象：青年男女30歳まで
場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）
指導：松田 浩一神父
費用：6,000円（一般）、4,000円（学生）
日時：2014年11月15日（土）受付開始16時
～16日（日）17時

問合せ・連絡先：カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
Tel 0774-32-7061
Fax 0774-32-7457
Email: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

一日常のキリスト教靈性を求めて—

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の靈的・心的修養を目的として、**靈的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- ・ この企画は、個人的靈的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- ・ 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(靈的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- ・ メソードの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- ・ キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

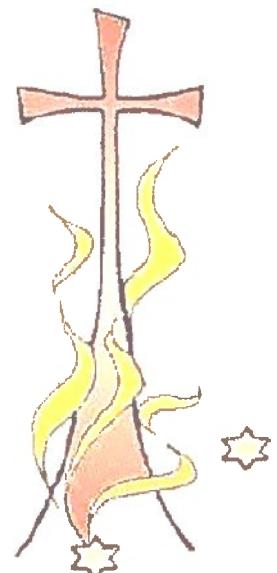
【参加者人数】

6 人

【開催日】



- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ② | | 2月21日(金)～22日(土) |
| ③ | | 3月28日(金)～29日(土) |
| ④ | | 6月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑤ | | 7月 4日(金)～ 5日(土) |
| ⑥ | | 9月12日(金)～13日(土) |
| ⑦ | | 10月 3日(金)～ 4日(土) |
| ⑧ | | 11月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑨ | | 12月 6日(金)～ 7日(土) |



(毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)

【参加費】 各回 6,500 円

【靈的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(默想)へ FAX、はがき、E メールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(默想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

靈性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～講話

15：30～ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13：30～聖書朗読、短い講和

14：30～ベネディクション、聖体顯示

15：30～聖体拝領

16：00～サルヴェレジナ、終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル靈性センター

〒921-8162



金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-276-7788

2014年度 名古屋カルメル靈性センター《都会の中の一日静修》

2003年から始まりました《都會の中の一日静修》は、今年で12年目を迎えることになりました。

カルメル会は、今その聖女、イエスの聖テレサ(アヴィラの聖テレジア)の生誕500年(2015年)を祝おうとしています。そのために、世界のカルメル会は聖女の著作を読み返しながら、その靈性を味わおうとしています。

幸いなことに、日本のカルメル会も、昨年および一昨年の四旬節講話で、聖女の靈性をいろいろな視点で味わい深めて、参りました。それらを振り返りながら、いろいろな切口で、聖女の靈性の中に浮かび上がるカルメルの靈性、さらにはキリスト者としての靈性を味わい深めることができたらと願っております。

《2014年度の年間テーマ》

「聖テレジア(アヴィラ)の私たちへのメッセージ」

—2015年：生誕500年に向かって—

第1回静修 1月13日(月・祝) 『テレジアが出会ったイエスを訪ねて』

中川博道神父(宇治修道院)

第2回静修 3月1日(土) 『靈魂の城』

今泉健神父(上野毛修道院)

第3回静修 5月31日(土) 『小品集』

古川利雅神父(日比野修道院)

第4回静修 7月21日(月・祝)『私は、あなたのために生まれた』：

：人間の召命に生きる 松田浩一神父(宇治修道院)

第5回静修 9月23日(火・祝)『アヴィラの聖テレジアと祈り』

Sr. Pauline(宣教カルメル会修道院)

第6回静修 11月3日(月・祝)『テレジアと出会った十字架の聖ヨハネ』

九里彰神父(本部修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4：00
 - * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分
聖テレジア幼稚園隣接)
 - * 参加費 1,000円
 - * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当など
 - * 定員 約30名
-
- * プログラム 10：00～ 祈り・導入・黙想
 - 10：30～ 講話（1）
 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11：50～ 扉の祈り・お告げの祈り
 - 12：15～ 扉食
 - 13：00～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13：30～ 講話（2）
 - 14：45～ ミサ
 - 15：30～ 茶話会・分かち合い
 - 16：00～ 終了予定

■申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELなどを記載の上、
(信徒の方は所属教会も記入) 開催日の3日前までに、下記へご送付ください。

なお、日比野教会で葬儀などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆カルメル会日比野修道院

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17
FAX 052-671-1825

☆ 問い合わせ先

小林 TEL052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（默想）の案内をご覧下さい。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（默想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月20,360円（4、7、10、1月に納入） 繼続の場合は19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話03-3344-2527（直通）

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 S r ローザにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

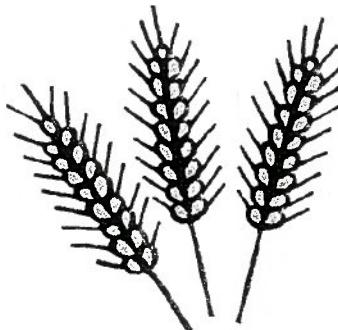
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（默想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：S r ローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観默想センター
真命山 靈性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の默想企画ご案内

※各默想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観默想センター



先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。 電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父

FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com

<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2014年予定

K5 11/29（土）-12/05（金）東京・小金井・聖靈会

2015年予定

K1 1/17（土）-1/23（金）東京・小金井・聖靈会

M1 2/7（土）-2/13（金）宝塚壳布・女子御受難会

N1 2/23（月）-3/1（日）滋賀唐崎・ノートルダム

K2 3/14（土）-3/20（金）東京・小金井・聖靈会

N2 4/30（木）-5/6（水）滋賀唐崎・ノートルダム

K3 6/12（金）-6/14（日）東京・小金井・聖靈会 2泊3日

T1 7/20（月）-7/26（日）兵庫西宮・トラピスチヌ

K4 9/19（土）-9/25（金）東京・小金井・聖靈会

N3 10/27（火）-11/2（月）滋賀唐崎・ノートルダム

T2 11/17（火）-11/23（月）兵庫西宮・トラピスチヌ

K5 12/12（土）-12/18（金）東京・小金井・聖靈会

祈りの集い（午前10時～午後3時）

真命山の靈性



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで 祈り



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を 分つ 交わり

1月 9日	天使からのお告げをお受けになった時の聖母マリアの祈り
2月 13日	エリザベットを訪れられた時の聖母マリアの祈り
3月 13日	神の子イエスをお産みになった時の聖母マリアの祈り
4月 10日	羊飼いたちや博士たちの訪問をお受けになった時の聖母マリアの祈り
5月 8日	聖ヨセフと共に神殿に登ぼり、イエス様をお捧げになった時の聖母マリアの祈り
6月 12日	聖ヨセフと共にエジプトへ逃れられた時の聖母マリアの祈り
7月 10日	聖ヨセフと共に神殿でイエスを見つけられた時の聖母マリアの祈り
8月	休み
9月 11日	ナザレで聖ヨセフとイエスと一緒にいた時の聖母マリアの祈り
10月 9日	イエスを探しに行かれた時の聖母マリアの祈り
11月 13日	イエスの十字架のもとでの聖母マリアの祈り
12月 11日	イエスの弟子たちと共に祈られた時の聖母マリアの祈り

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

(真命山院長)

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間の
コース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的と
し、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、

各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教
哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教
思想史に興味を持っている方、プログラム等に関
してはHP(文末)を見て下さい。

2014年度のテーマ：超越理解と理性の自己発見

— II 近世・近代・現代

「中世：哲学・神学・神秘思想」(9世紀－15世紀)

[中世末期]

11/08, 11/15, 11/29, 12/06, 12/20, 2015年

01/10, 01/17, 01/24, 01/31, 02/07

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月12
日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45
分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日
は、クルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40
分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月5日は休み。

・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、4月30日、7月30日、8月全
体、12月24日は休み。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。

11月15日、12月6日、

2015年1月10日、2月7日、3月14日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10
分～16時50分

●黙想会

[1泊6,600/7,000円程度]

[関東]

2014年

11月22日(土)10時～23日(日)14時(東村山)、

2015年

02月28日(土)10時～3月1日(日)14時(上石神井)。

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 17時30分～20時10分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。

但し祝日、4月17日、4月28日、5月1日、7月31日、8月全体、9月22日、12月29日は休み。

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

10月31日(金)20時30分～11月3日(月)10時

●アガベ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。

2015年1月25日(日)

●クリスマス会

12月13日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階、404。要
申し込み。

●クリスマスのミサ

12月23日(火)14時～上智大学内クルトゥルハイム聖堂
(80人限定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2014年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2014年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

11/07 父と子と聖靈— 神の生命に与る

11/14 信仰の決断— 支えられて生きる

11/21 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧

11/22-23 ●默想会(東村山)

11/28 自己実現と神の意志— 生き方の規範

12/05 人間の弱さ— 罪とは何か

12/12 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける

12/13 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404;要申し込み)

12/19 愛の心— キリスト教の本質

12/23 ◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クトルハイム2階、80人限定)

12/26, 1/2○休み

2015年

01/09 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う

01/16 希望を持つ勇気— 未来に向かって歩む

01/23 霊の動き— 福音による生き方

01/30 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰

02/06 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方

02/13 結婚と独身— 愛の道

02/20 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されてい
る

02/27 仕事という人間の課題— 社会と教会に
寄与して働く

02/28-3/1 ●黙想会(上石神井)

03/06 人間の苦悩— 悪とは何のためか

03/13 死— その受け入れと克服

03/20 人生の完成— 神の内に生きる

03/27 聖母マリア— 信じる者の原型

04/05 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クトルハイム2階、80人限定)

[イエス]

11/04 死からの命 —— 復活の認識・経験・理解

11/18 キリストはだれか —— キリスト理解の発展

11/22-23 ●黙想会(東村山)

12/02 御子の受肉 —— 神の子と人の子

12/13 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分
パーティ、岐部ホール4階404;要申し込み)

[聖霊]

12/16 神の内的現存 —— 人間における聖霊の
働き

12/23 ◆クリスマスのミサ(14時、クトルハイム2
階、80人限定)

01/06 三位一体の神 —— 救いの構造から神内
の存在へ

[教会]

01/20 信仰者の共同体 —— 教会の本質

02/03 救いのしるしと実現 —— 秘跡の意味

02/17 憐れみと愛の祝い —— 罪のゆるしとミサ

02/28-3/1 ●黙想会(上石神井)

03/03 「聖徒の交わり」 —— 世界の只中のキリスト

03/17 人間と世界の究極の未来 —— 終末の約束

03/31 信仰者の原型 —— 聖書に見られるイエ
スの母

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルベホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ



すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

2014年11月15日(土) 「マリアの祈り」

時間変更：午後1時半～午後3時半位まで

講話・祈り

12月20日(土) 「飼い葉おけに置かれた神」

午後2時～午後5時30分位まで

講話・祈り・質問・分かれ合い

講話　伊従信子

参加費　200円

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

「年末の静修の日」は今年ありません。

12月20日に「飼い葉おけに置かれた神」とその母と共に祈り、
新しい年を迎えるといふ思います。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel : 077-579-7580

Fax : 077-579-3804

Eメール : karainorind92@mbn.nifty.com

◎ 交通：JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2014年 4月 29日 (火) ~ 5月 7日 (水)
- ② 8月 14日 (木) ~ 8月 22日 (金)
- ③ 10月 25日 (土) ~ 11月 2日 (日)
- ④ 12月 27日 (土) ~ 2015年 1月 4日 (日)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2014年 2月 7日 (金) ~ 2月 9日 (日)
- ② 2月 28日 (金) ~ 3月 2日 (日)
- ③ 3月 21日 (金) ~ 3月 23日 (日)
- ④ 6月 20日 (金) ~ 6月 22日 (日)
- ⑤ 7月 18日 (金) ~ 7月 20日 (日)
- ⑥ 9月 26日 (金) ~ 9月 28日 (日)
- ⑦ 11月 28日 (金) ~ 11月 30日 (日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

2014年 5月 26日 (月) ~ 6月 3日 (火) 藤原 直達 師 (大阪教区)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 靈的同伴者：司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み：1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順 11名です。

◎ その他：司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい
方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）



★申込み受付・開始日の8日前で締め切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>



コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
日帰り フォロー アップ	11/30(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※ Tel & Fax 03-5802-3844
サダナ I	2015年 1/9(金)17:30- 1/12(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山)	若山美知子※
入門C	1/18(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
自己を知 る *1泊2日 ×2= 合計4日	1/24(土)9:30- 25(日)17:00 1/31(土)9:30- 2/1(日)17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
日帰り フォロー アップ	2/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナ II	3/18(水)17:30- 3/22(日)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門 A.B.C) 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14：00～16：00
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

11月13日（木）『靈魂の城』第六の住居・第六章
12月11日（木）

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

* 参加費無料（献金歓迎）
*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

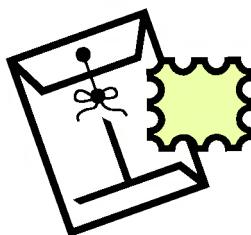


九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

靈性センターニュース

年間購読(郵送)のご案内



来年(2015年)1月から12月までの『靈性センターニュース』
年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例: 6月申込の場合は、7月号~12月号(但し8月号休刊を除きます)
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先: 下記の靈性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、

郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先: 精性センターニュースの最終ページをご参照下さい

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊100円程度の献金をお願致します！

「靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



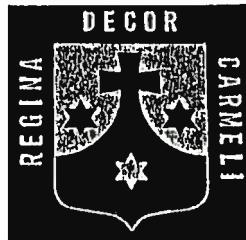
編集後記

ついに私も、「敬老バス」（名古屋市営の地下鉄、バスが無料！）なるものをいたくことになった。それを、この編集後記であったかどうか忘れてしまったが、どこかに書いたような記憶がある。このこと自体が、「敬老バス」をいたくにふさわしい年齢となったことを証ししているようである。（「いや、前からそうだった！」という声が聞こえてくるが、そんなことはない。）

届けられたこのバスを見ると、何と表にでかでかと「敬老バス」と印刷されている。ICカードのように使うのだと思っていたが、妙に薄っぺらい。改札で駅員に聞くと、「切符のように通してください」と言う。通すと、ぱっとバスが出てくるが、見事に「敬老バス」という大きな文字が出てきて、遠くからもよく見える。裏返しにして入れて見たが、やはり表が出てくるようになっている（この場合は、「敬老バス」という字は逆さまになってやや隠される）。良寛さんの句が想い起される。

裏を見せ 表を見せて 散る紅葉

(P.九里)



、製本／発送のご協力お願い

「靈性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪
「12月号」製本日 **11月25日(火)** 上野毛教会信徒会館ホール1階

*参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03 · 3704 · 2171